

とかしきなおみ（自民党副幹事長・衆議院議員・薬剤師）活動報告 63

日本人の生き様が問われる安保法制



国を自衛する方法

法は大きく分けて

2つあります。

1つは、自国の

軍備により国を守

る方法。もう1つ

は、法整備によって国を守る方法で

す。前者は、人員や武器を備える必

要があり、国は大きな負担を強いら

れます。しかし後者の方法は自国だ

けで国を守るのではなく、信頼でき

る国々が相互に守り合うのでいざと

いう時の備えはもちろん必要です

が、負担は前者より軽く抑止力とし

ての効果も大いに期待できます。

では、なぜ今このタイミングで法

整備が必要なのでしょう。

現在の我が国を取り巻く安全保障

環境は、かつて経験した事のないほ

ど厳しい状況です。

過去27年で約41倍に国防費を膨張

させた中国は、東シナ海に12基のプ

ラットホームを新たに建設しました。

中国がこれを軍事転用した場合、日本

は喉元に刃を突き付けられたような形

になり、日本版キューバ危機となる可

能性も出てきました。

北朝鮮は、既に核実験を3度も実施

し、何度も日本海に向けてミサイルを

発射し、その技術は回数を積み重ねる

ことにより著しい進化が見られるよう

になっていきます。

そして我が国の領空を脅かされる頻

度は近年激増し、平成26年の自衛隊戦

闘機緊急発進回数は943回（ロシア

473回、中国464回、その他6回）

となっており、実に1日に約3回他国

の航空機が日本領空を侵犯したことに

なります。

戦後70年、今日まで我が国が平和で

過ごすことができたのは、アメリカを

はじめ多くの国の善意と犠牲があった

からこそだということ、私たち日本

人は決して忘れてはいけません。85年

イラン・イラク戦争で孤立した日本人

215名を救ってくれたのはトルコで

した。94年イエメン内戦で97人の日本

人を救ってくれたのはドイツ・フラ

ンス・イタリアの軍隊でした。04年

自爆テロに襲われた日本タンカー

を、犠牲を払ってでも守ってくれた

のはアメリカ軍でした。

このように日本を取り巻く国際環

境が予断を許さない中、第2次世界

大戦後から世界の安全保障を担って

きた米国は最強のリーダーシップを

失い、2013年オバマ大統領はつ

いに米国が担っていた「世界の警察

官としての役割」を放棄すると宣言

しました。

もちろん日米同盟を基軸とする姿

勢は変わりませんが、国際社会の安

定こそが日本の平和に資することは

明らかであり、我が国も変わらなけ

ればならない時代に入っているので

す。

「世のため、人のため」という武

士道の考え方を生んだ日本人が、厳

しい国際状況の中、今後どのように

して国と国民を守るのか、この安保

法制では日本人の生き様が問われて

いると思います。